2019/11/7　中村

解脱の宝飾（11/7　P234L28 ～ P236L24）

智恵の生じ方

また、その智恵(ちえ)もまたふつうには生じない。例えば、わずかほどの樹に火を燃やしても、大きくて長時間の火は生じない。乾ききって多くの樹を積んで火を燃やすなら、大きくて長時間の火が、消しても、消えずに生ずる。
同じく、わずかほどの福徳しか積んでいない者に、大きな智恵(ちえ)は生じないが、施しと戒などどの大きな福徳を積んだ者には、大きな智恵(ちえ)が生起し、障すべてを焼く。よって、(V231)まさに智恵(ちえ)のために、施しなどに依ることが必要です。
　そのようにまた「入行論」(訳註 9) に、「これら〔静慮波羅蜜までの〕支分すべては智恵(ちえ)のために、牟尼は説かれた。」と出ています。(H99b)

Furthermore, wisdom（知恵）　awareness（気づき定義）　does not arise by itself. For example, ample, even if you kindled a fire from a small amount of wood, a large, long-burning fire would not appear. But, if you made a fire by gathering a large amount of dry wood, it would become large and long-burning and you would not be able to put it out even if you tried to extinguish it. Likewise, great wisdom awareness will not arise where there is little accumulation of merit, but on the other hand, great wisdom dom awareness will arise where there is a great accumulation of merit from generosity, moral ethics, and so forth, and it will burn all the obscurations. Therefore, for wisdom awareness, you have to depend on generosity and so forth. Engaging in the Conduct of Bodhisattvas says: All of these branches' were said by the Buddha to be for the purpose of wisdom.

三十七の菩薩行
般若の智慧なき五つの波羅蜜で
究境菩提は証得するをえず
方便そなえた三輪無分別
智慧を修する仏子菩薩行　（30）

ネット『三十七の菩薩行試訳』より
『智慧がなければ五波羅蜜によって、
　無上菩提を得ることはできないので、
　方便を伴う三輪清浄の
　智慧を修習するのが菩薩の実践です』

方便（ほうべん）仏教語大辞典
①真実の教えに導くためのてだてとして仮に用いる手段としての教え。世の人を救い、悟りに導くために一時、手段として用いる方法。

三輪（さんりん）仏教語大辞典
⑤布施における施者と受者と施物の三つ。この三つに空を観じて執着しないことを三輪清浄という。

ネット『無分別智(横山紘一『やさしい唯識』221 頁～)』より
『例えば、私がある人にものを与えるという場合、自分はものを施す「施者」であり、受け取る人は「受者」であり、その二人の間に「施す」という行為、あるいは「施物」があると分別します。そしてはっきり意識しないにしても、与えたことによって私には多少なりともおごりの気持ちが起こってきます。
「相手に施したのだ」という自慢の心が私の中に全く生じないといえばうそになります。

ここが恐ろしいところです。人にものを与えるという利他行によって、逆に自我意識をより強めることになりかねないからです。そのような思いで布施を行うのではなく、施者と受者と施物（あるいは施という行為）と全く分別しない無分別智をもって、布施を実践することが大切です』

家庭のお経（維摩経と勝鬘教）より
(前略)あわてたのは大物中の大物と、自他共に許している舎利弗（しゃりほつ）さんでした。一所懸命に花を振い落とそうとしていると、天女が訊くんです。
「舎利弗さん、どうして花を落とそうとするんですか」
「この花は僧の身にはふさわしくない。だから落とそうとするんだ」
すると天女がピシャリとやっつけます。
「舎利弗さん、この花を僧の身にふさわしくないなんて言っちゃいけませんよ。花のほうじゃ、あなたにくっつこうなんて思っちゃいませんよ。あなたのほうで、わしにはふさわしくないなんて思うから、くっつくんです。仏法者があれこれ分別したりするなんて、そっちのほうこそ不如法ってもんでしょ。分別することがなかっだら、それこそ如法ってもんでしょ。舎利弗さん、あなたは、出家に花はふさわしくないなんて分別をしていますね。不如法なのは花じゃなくて、あなたじゃありませんか。
　菩薩はいっさい分別なんかしませんからね、花はサラサラと落ちてゆくんです。
　あなたは迷いを断ち切ったつもりでしょうが、まだ迷いが残っていますよ。そんな匂いがなくなったら花はくっつきませんよ」（後略）

如法（にょほう）仏教語大辞典
①仏の教えにかなうこと。規則どおりなこと。また、そのような行いや修行。

前行　マンダラ供養最後のページ（P47）

三身円満上師の集まりに　外内秘密の真如て供養せん
我が身と財宝あまねく受けとりて　無上の成就を授けたまえかし

と唱えた後、福田が汝に集まり、供える人も供えられる物も供える相手も、すべてが一切の名相と性質を越えた本然に入る。究極のマンダラであるマハームードラの不変の境の中にしばらく止まれ。

名相（みょうそう）仏教語大辞典
①名称と形態。名とそのものの姿・形などの特徴。転じて、現象世界の虚妄なことをさす。

本然（ほんねん）仏教語大辞典
本来、身に具わっていること。また、本来のままにあること。

・・・・・・・・・・・
2005 年 12 月 25 日 ASMI『般若波羅蜜心経の講話より』
（ワンワンにゃーにゃーの部分略）
　ところがプラジュニャーというのは、分別智ではなく『無分別智』なんです。「分別がない初めから知っていること」…。でも「初めから」っていつ？
　「初め」というのは、一応生まれる前と例え話で言いますけれど、人間の向こうから来ること。

2019/11/7　中村

人間の『分別』のことを我々は「conditioning（調整・調節）」と言いますね。「conditioning」というのは、物事を分別していくこと。また我々は「ego（自我・我）」と言いますね。エゴというのは物事を分別して学んで出来ます。あるいは「lifestyle」とアドラー心理学は言いますし、あるいは仏教語だとカルマと言います。カルマとか ego とか分別とか conditioning とか、いろんな言い方があってややこしいけれど、一緒こたに使いましょう。

こんなのを哲学者達は細かく細かく区別して使いますが、それは奥さんがいないからです。奥さんがいますと、読んで聞かせると「分かんないわよ。もっと分かるように言いなさい」と言われるので書き直す努力をします。けれどだいたいの哲学者は独身ですから、ああいう風に小うるさいことが言えるわけです。私はには奥さんがいませんが、周りにうるさい女がいっぱいいますので、「どう違うか説明しなさい」と言われたら困るから、だからめんどくさいから、全部一緒こたに使います。

だからマインドとかエゴとかと違うとすると、どこにあるかと言えば私の中に無いんです。「プラジュニャーは私の中にない」のです。これが「プラジュニャー・パーラミタ・フルダヤ（般若波羅蜜心経）」を読み解く鍵となります。この経典を読み解くときに「プラジュニャーが人間の中にない」、人間には愛の絶対的不可能性と言ってるけれど、人間は人を愛することが出来ない。人間は正直に誠実に善人として生きることが出来ない。

そのプラジュニャーは、よそから来るんだ。これがプラジュニャーということです。

（ここからパーラミタの説明になるので後略）

・・・・・・・・・・・・・

『仏教用語の基礎知識　水野弘元　P227 ～ 228』より

慧と智　これらの中で、もっとも一般に用いられるのは prajna（panna）と jñana（ñana）である。ともに智慧と訳されるが、玄奘の新訳では前者を慧とし、後者を智としている。三学中の慧や六波羅蜜中の般若波羅蜜はともに慧である。

慧（prajna, panna）は最広義の智慧であって、阿毘達磨によれば、善・悪・無記のあらゆる知的作用を含み、有漏凡夫の劣慧から無漏の最高慧までを含むものである。般若（はんにゃ）といえば、一般には般若の智慧といわれて、最高の智慧のように考えられるが、般若だけでは普通の慧であって、これに**波羅蜜**（paramita）という最高完全という語が加わっているために、般若波羅蜜で最高完全の智慧ということになる。

智（jnana, nana）は主として悟りの智慧に用いられる。尽智・無生智とか、正智とかはすべて阿羅漢の智慧であり、智波羅蜜は十地の最高菩薩の智慧であり、**四智**（成所作智・妙観察智・平等性智・大円鏡智）やこれに法界体性智を加えた**五智**はすべて菩薩の悟りの智慧である。一切智・道種智・一切種智（一切智智）の三智もそれぞれ二乗（声聞・縁覚）の智慧、菩薩の智慧、仏のみの智慧で、悟りの智慧に属する。

もっとも智が慧と同義に用いられ、有漏の慧をも智と呼ぶことがある。たとえば倶舎論で**十智**が説かれ、この中の世俗智だけは有漏慧であり、その他の法智・類智・苦智・集智・滅智・道智・他心智・尽智・無生智はすべて無漏慧である。またこの十智に如実智を加えた唯識法相宗の**十一智**においても、如実智は有漏凡夫の高い智慧であって、無漏慧ではない。ちなみに有漏慧としての世俗智は生得慧・聞慧・思慧・修慧の**四慧**とされる。

慧の同義語　**明**（vidya）、**覚**（buddhi）、**慧**（medha）、**広**（bhüri）は**眼**や**光明**とともに智慧の同義語とされ、**明**は明行足にも用いられて仏の智慧とされる。

十地　（じゅうじ）　PC 辞書

〔仏〕菩薩の修行の段階を 10 に整理したもの。後に菩薩の修行が 52 位に整理されると、その第 41 位から第 50 位までに当てられた。歓喜(かんぎ)地・離垢(りく)地・発光(ほっこう)地・焔慧(えんね)地・難勝地・現前地・遠行(おんぎょう)地・不動地・善慧(ぜんね)地・法雲地。また、他の種類もある。

智恵の［自］体

智恵の自体は、法を簡択（弁別）することです。そのようにまた「アビダルマ集論」（訳註 10）に「智恵は何かというと、［観察された諸々の事物の］法を弁別することです。」と説かれています。

II. Definition.（定義） The definition of wisdom awareness is the perfect and full discrimination （差別）of all phenomena.（現象） The Collection of the Abhidharma dharma says: What is wisdom awareness? It is perfect and full discrimination of phenomena.

法（ほう）仏教語大辞典
②一切万有に通ずる理法。永遠の真理。　⑨仏の説いた教え。仏法。仏教。また三宝の一つ、法宝。

簡択　（かんたく、けんじゃく）PC 辞書
えらぶこと。簡選。簡抜。

弁別　（べんべつ）PC 辞書
わきまえわかつこと。見分けること。識別。

智恵の区別

智恵について区別するなら、［三つ一すなわち］『荘厳経論の註釈』（訳註 11）に三種類を説かれていますー
1）世間の智恵と、
2）劣った出世間の智恵と、
3）大の出世間の智恵です。

III. Classification. （分類）
The commentary to the Ornament of Mahayana Sutra lists three types:
A. wisdom awareness of the mundane,（ありふれた）
B. wisdom awareness of the lesser supramundane, and
C. wisdom awareness of the greater supramundane.

supramundane　※不明・調べられず
supra （上の、前に）　mundane（現世の、世俗的な）

出世間　（しゅっせけん）仏教語大辞典
③仏法の世界。仏法の領域。

智恵の区別個々の自相

それら個々の自相（定義）を説明するなら、

IV. Characteristics（特徴） of Each Classification. （分類）

自相（じそう）仏教語大辞典
②事物それ自体の本性。それ自体が持つ特質。本質。

世間の智恵の自相

［第一:］世間の智恵は、［五種類の学術――(※)五明処のうち、］医方明(医学)と因明(論理学)と声明(文法学)と工巧明(工学)です。［それら］四つの明処に依って生じた智恵なるものです。

A. Wisdom Awareness of the Mundane.（世間）　The study of medicine and healing, the study of reasoning, the study of linguistics, and the study of the arts-the wisdom awareness which arises in dependence on these four is called wisdom awareness of the mundane.

世間（せけん）仏教語大辞典
①壊れていくものの意。また、世俗・世間に属するもの、移り変わり、破壊していく世界をさし、これに山河大地などの器世間、そこに住む生きものである有情世間（衆生世間）を分け、またこの二つを構成する要素としての五蘊を別に立てて五蘊世間といい、これらを超越した仏・菩薩の境界が出世間とされる。

五蘊（ごうん）仏教語大辞典
①色（物質）・受（印象・感覚）・想（知覚・表象）・行（意思などの心作用）・識（心）の五つをいい、総じて有情の物心の両面にわたる。因縁によって生ずる有為法をいう。また、心身環境をも示す。

五明（ごみょう）仏教語大辞典
①古代インドで用いられた学問の分類法。仏教ではこれに内・外を分け、「内の五明」を仏教徒として学ぶ因明（論理学）・声明（言語学・文学）・内明（宗教・哲学）・医方明（医学）・工巧明（工芸・技術・暦数など）の五つとし、「外の五明」を普通、声明・医方明・工巧明・呪術明・符印明とする。

出世間の劣った智恵と大の智恵の自相

［第二、第三：］出世間の智恵の二つは、「内明」という正法に依って生じた智恵なるものです。

The two types of supramundane wisdom awareness are called inner ner awarenesses which arise in dependence on the holy Dharma.

内明（ないみょう）仏教語大辞典
五明の一つ。仏教の教理を研究する学問。

それもまた、第一:劣った出世間の智恵は、声聞と独覚の聞・思・修の三つから生じた［・所成の］智恵です。この［五］取蘊は不浄である、苦である、無常である、無我であると証得するのです。

B. Wisdom Awareness of the Lesser Supramundane. The first, the lesser supramundane wisdom awareness, is the wisdom awareness that arises from the hearing, reflection, and meditation of the Hearers and Solitary Realizers. It is the realization that the afflicted aggregates of personality are impure, of the nature of suffering, impermanent, and without self.

2019/11/7　中村

声聞（しょうもん）仏教語大辞典
縁覚・菩薩と共に三乗の一つ。釈尊の説法の声を聞いて悟る弟子。縁覚・菩薩に対しては、仏の教説によって四諦の理（苦・集・滅・道）を悟り、阿羅漢になることを究極の目的とする仏弟子。その目的とするものが、個人的解釈にすぎないので、大乗の立場からは小乗の徒とされる。

独覚（どっかく）仏教語大辞典
三乗の一つ。仏の教えによらないで自力で悟りをひらき、静かに孤独を楽しんで、利他のために説法をしない聖者。縁覚・辟支仏（びゃくしぶつ）とも。

聞（もん）仏教語大辞典
②教えを聞くこと

思（し）仏教語大辞典
①対象に向かって発動させる心のはたらき。心にこうしようと思う意思。

修（しゅ）仏教語大辞典
①修行すること。仏道を実践すること。善に努めるとか、禅を行うとなど、。また、本来具わっているものを修行により顕すこと。

取蘊（しゅうん）仏教語大辞典
煩悩の集まりの意。

ちょっとエピソード
　先日、上記の声聞・独覚さんを勉強している時（『おーそうだった。自分だけ分かって喜んでる人たちだった』と調べていた時）に LINE（川平法の研修会のスタッフ用）の連絡が入りました。仲間の連れ合いさんからです。「本も送ってあげなさいよ」と。

※『川平法を自分達で』とは正式には促通反復療法と言いまして、脳卒中片麻痺の方に対する夫婦等ペアで行うリハビリ研修会です。ゆっくりした回復ですが、車椅子の方が少しずつ歩ける距離が伸びていったり、動かなかった腕が上がり出したりするのを目の当たりにもします。2011 年に NHK スペシャルで放送のあった『脳がよみがえる』から始まった研修会で、かれこれ 8 年目になります。

　この研修会では実際の施術の様子を DVD にして、欲しい人に郵送しています。（無料）以前は企業から頂いた寄付金で送っていましたが、そのうち底をつき現在はポケットマネーです。先日はなんとアメリカ在住の日本の方からでした。ダンナが脳梗塞になり現地でリハビリは受けているものの左麻痺が思うように改善しないと。そこでネットで我々のことを知り、「アメリカ在住だけど送ってもらえるか？」。住所を確かめる返信をすると「返事をもらえるなんて思わなかった。奇跡が起こった！」。
（いや、別に奇跡じゃねぇし…、メール返信しただけだし）

　そんなやりとりを LINE に流していたら、「川平先生の簡単な施術の載った本（DVD 付き）も送ってあげたら」と、上記の連れ合いさんに言われたのでした。「うーわ、そこまでですか！」とぼやきつつ、フトこれは観音菩薩様のお言葉を聞いているのだろうなと思ったのでした。

はい、分かりました。私が一度読んだ中古品ですが、上記の本謹んで同封させて頂きます。で、先ほどエアメールを郵便局から送ってきました。無事届きますように！

→エアメールで 2 週間以上かかりましたが無事届いたようです。

第二:大の出世間の智恵(ぼんにゃ)は、大乗の聞・思・修の三つから生じた［・所成の］智恵(ぼんにゃ)です。一切法は自性により〔成立していることについて］空性である、無生である、所依事無く根本を離れていると知るのです。
そのようにまた(V232)『七百頌般若波羅蜜経』（訳註 12）に「一切法は生が無いと知ること――それが、智恵(ぼんにゃ)の完成(般若波羅蜜)です。」と脱かれています。「聖摂」（訳註 13）にもまた、「諸法は無自性であると遍知している。これが、最上の般若波羅蜜を行ずること(H100a)です。」と説かれています。『菩提道灯論』(訳註 14）にもまた、「［五］蘊、［十八］界、［十二］処は生が無いと証得した自性は空であることを知るのを、智恵(ぼんにゃ)というと〔仏陀と師により〕 説明されている。」と説かれています。

C. Wisdom Awareness of the Greater Supramundane. Second, the greater supramundane wisdom awareness is the wisdom awareness that arises from the hearing, reflection, and meditation of the followers ers of the Mahayana.（大乗） It is the realization that all phenomena are, by nature, emptiness, unborn,（無生） without a foundation and without roots. The 700 Stanza Perfection of Wisdom says:
The realization that all phenomena are unborn- that is the perfection fection of wisdom awareness.
And the Condensed Perfection of Wisdom Sutra says:
Fully realizing that phenomena are without any inherent existence is the practice of the supreme perfection of wisdom awareness.
Also, the Lamp for the Path to Enlightenment says:
That which is called wisdom awareness has been thoroughly explained as coming from the realization of the emptiness of inherent existence, which is the realization that aggregates,（集合体） constituent stituent elements,（構成要素） and sources（源） are without birth.

（訳註 14）
『道灯論自註釈』(Khi 278b7-279a1)に、「蘊と界と処に外・内の一切法は包摂されているのです。世尊のお口から「バラモンよ、「一切、一切」というのは蘊と界と処です」と説かれている。」という。

大乗（だいじょう）仏教語大辞典
①《「大」は広大無限でもっともすぐれたの意、「乗」は悟りの彼岸へ到達させる乗り物の意》後期仏教の二大流派の一つ。小乗仏教が修行による個人の解脱を説いたのに対して、利他救済の立場から広く人間全体の平等と成仏を説き、それが仏の教えの真の大道であるとする教え。小乗のように消極的・形式的でなく、むしろ内的・精神的であり、その世界観・人生観も積極的・活動的であるとされる。ただし、この大乗に対し、さらに一乗、また、一大乗を説く考え方がある。

無生（むしょう）仏教語大辞典
②空の理法。生滅を越えた絶対の真理。

所依（しょい）仏教語大辞典
①理由。わけ。

蘊（うん）仏教語大辞典
②五蘊（人間の存在を構成する五つの要素である色・受・想・行・識の五つ）の略

界（かい）仏教語大辞典
①人間存在の十八の構成要素、いわゆる十八界（六根と六境と六識）の一々。

処（しょ）仏教語大辞典
②心作用が起こるための場所。認識の場。十二処（感覚器官などの六根とその対象である六境）というときの処はその例。

【試訳】
3）大の出世間の智恵(はんにや)は、大乗の聞（教えを聞くこと）・思（心にこうしようと思う意思）・修（仏道を実践すること）の三つから生じた智恵(はんにや)です。 それは、一切法は自性により、空性であり、無生（生滅を越えた絶対の真理）であり、理由無く根本を離れていると知るのです。 そのようにまた『七百頌般若波羅蜜経』に「一切法は生が無いと知ること――それが、智恵(はんにや)の完成(般若波羅蜜)です。」と脱かれています。
「聖摂」にもまた、「諸法は無自性であると遍知している。これが、最上の般若波羅蜜を行ずることです。」と説かれています。『菩提道灯論』 にもまた、「蘊（五蘊）、界（人間存在の 18 の構成要素）、処（心作用が起こるための場所。認識の場。十二処）は生が無いと証得した自性は空であることを知るのを、智恵(はんにや)というと 説明されている。」と説かれています。

智恵を知るべきこと

智恵(はんにや)を知るべきことは、智恵(はんにや)には三つが有るうち、大の出世間の智恵(はんにや)それを知ることが必要です。それを説明するには、六種類の義により説くのです――
1）事物〔・有〕 だと執らえることを否定する、
2）非事物〔・無]だと執らえることを否定する、
3）無いと執らえることの過失、
4）執らえること両分の過失、
5）解脱することになる道、
6）解脱の自性〔である〕温繋です。

V. What is to be Known:
the Wisdom Awareness. From among the three types of wisdom awareness, the greater supramundane wisdom awareness must be studied. This will be explained through six topics:

義（ぎ）仏教語大辞典
④仏の教説。または、教義・内容

A. the refutation of grasping things as being existent,

（1）事物〔・有〕 だと執らえることを否定する、

※この 6 つのトピックは、相当ページを割いて説明される。（P246 の尾関さん担当の途中まで）
※特にこの(1)はかなり丁寧で、次の段落（P236 中村担当）から始まり、11/21 の小倉さん担当～ 12/5 の東さん担当～ 12/19 の清野さん担当（P242）まで続きます。

事物（じぶつ）PC 辞書
事と物。種々の出来事や物。ものごと。

【試訳】
ものごとが存在していると、とらえるえることを否定する

B. the refutation of grasping things as being nonexistent,

（2）非事物〔・無]だと執らえることを否定する、　※ P242 ～中井さん担当分

【試訳】
ものごとが存在しないと、とらえるえることを否定する

C. the fallacy of grasping nonexistence,

（3）無いと執らえることの過失、　※ P243 ～中井さん担当分

（3）から『過失』に変わった

D. the fallacy of both graspings,

（4）執らえること両分の過失、　※ P244　野上さん担当分

両分（りょうぶん）PC 辞書
二つに分けること。二分。

E. the path that leads to liberation, and

（5）解脱することになる道、　※ P244 ～野上さん担当分

（5）は『道　path』に

F. nirvana, the nature of liberation.

（6）解脱の自性〔である〕温繋です。　※ P245 ～ 246 尾関さん担当分

温繋（ねはん）仏教語大辞典
①すべての煩悩の火がふきけされて、不生不滅の悟りの智慧を完成した境地。迷いや悩みを離れた悟りの境地。解脱。

事物だと執らえることを否定する

そのうち、第一、事物だと執らえることを否定することは、主尊（Jo bo）の『菩提道灯論』（訳註 15）に、「有るものが生ずることは道理でない。無いものも虚空の華のようである。」などと、大きな論証因により伺察してから説かれています。
　道次第（V233）として説かれるというなら、事物または物だと執らえることすべては、〔人・法の〕二我に摂まっているし、その二我は自性により空性であると説かれています。（訳註 16）

A. First, the Refutation of Grasping Things as Being Existent. In the Lamp for the Path to Enlightenment, Atisha says:　It is not logical for something that already exists to arise. Also, something which does not exist is like a sky-flower.　And so forth, it is said to be analyzed by such great reasonings.
If this is explained according to the Lam Rim, existence and grasping ing of existence can all be categorized under two "selves" and these two selves are, by nature, empty.

主尊（Jo bo）
　※調べられず。　→　『菩提道灯論』のアティーシャ様であろうと思われる

（訳註 15）
「道灯論自註釈」（Khi 279a2-4）に、
「そのような智恵といわれるそれはどのような理趣により現前にされることになるのか、

というなら、［答えて］言う――四つの大きな論証因により知ることになるのです。四つは何かというと、〔有無など〕　四辺の生を否定する論証因と、［自他など四つからの生を否定する〕　金剛片の論理と、一と多を離れたという論証因と、縁起の論証因です。それらもまた何なのかというと、」
といって、この偈頌（ｹﾞｼﾞｭ？）が示されている。

偈頌（ｹﾞｼﾞｭ？）PC 辞書
経・論などの中に、韻文の形で、仏を賛嘆し教理を述べたもの。また、仏教の真理を詩の形で述べたもの。

（訳註 16）
「教次第大論」348b2f; 前者には、
「三界の輪廻に生ずる因は、業と煩悩の二つであることから、それも煩悩が無いなら、業が有っても果を与えること不可能なので、中心は煩悩です。煩悩は無明・渇愛・取の三つのうち、中心は無明です。無明の〔自〕体も四顛倒のうち、中心は我が無いのに我と見ることです。それが有るなら、輪廻に生ずるし、それを離れたなら、湿盤を得るからです。」などといい、さらに常断の見を断つものとして、有身見における人無我の修習、縁起と空の修習、蘊界処における法無我の修習へと進んでいる。「教次第大論」は外道の主張を論破してから、自部の毘婆沙師、経量部、琉伽行派それぞれの二諦説を出してから論破し、その後、自宗の二諦説を立てている。
　二我と二無我の規定は大乗に一般的なものである。『道灯論自註釈』に明言はないようであり、本論が具体的にどの記述を指すのかは不明。人無我を証悟して自己が輪廻から解脱するのが中士と共通した道次第、そして法無我を証悟して他者のために無上正等覚をめざすのが大士の道次第である。なお『青冊子の註釈』（1991）pp.346-347 には、チャンドラキールティの『入中論』より声聞も法無我を証得するという独特の学説を提示している。

四顛倒（してんどう）PC 辞書
四つの誤った考え。真の仏智から見れば、世間の一切のものは無常・苦・無我・不浄であるのに、これを常・楽・我・浄と考えること。また、仏の涅槃は常・楽・我・浄であるのに、これを無常・苦・無我・不浄と考えること。四倒。

【試訳】
ものごとが存在していると、とらえるえることを否定する
そのうち、(1)のものごとが存在していると、とらえるえることを否定するということは、アティーシャ様の『菩提道灯論』に、「すでに存在する何かが生じるのは論理的ではありません。　また、存在しないものは虚空の華のようなものです」など、それはそのような偉大な推論によって説かれています。
　これが道次第によって説かれる場合、存在と存在の把握はすべて 2 つの「自己」に分類され、これら 2 つの自己は本質的に空です。

人･法の二我
では、二種類の我、または心といわれるのは何であるのかは、（訳註 17）
1）人我といわれるものと、
2）法我といわれるものです。

What, then, are these two selves or "mind"? They are what is called the "self of persons" and the "self of phenomena."

2019/11/7　中村

人我（にんが）仏教語大辞典
①個体としての人間にあるとされた常住不変の我のこと。

法我（ほうが）仏教語大辞典
①主観の側の個体としての主体的な我に対する、客観の側の存在としての本性的な我をさしていう。人我に対する法我。

（訳註 17）
我を心ないし五蘊と同一視することに関しては、すでに初期経典の教証として、
1)「沙門またはバラモンの、我といって正しく見る者たちは、この取の五蘊こそを正しく見る」と説かれたことから、我を五蘊と同一視する事例、
2)「我こそが我の主です。他の誰が主になるでしょうか。我こそをよく調えることにより、賢者は上の界を得るでしょう」、「調えられた心はよい。調えられた心は安楽をもたらす」と説かれたことから心と同一視する事例が見られる。部派などでは蘊の相続を我の具体例だと主張するし、ダルマキールティなどの経量部、ブハーヴィヴェーカの中観自立論証派などアーラヤ識を認めない者たちは、意識を我の具体例としている。唯識派や琉伽行中観派のアーラヤ識を認める者は、アーラヤ識が我の具体例だとしている。他方、チャンドラキールティなど中観帰謬論証派は、
1）の教証は慈より他のものである我を否定するものであるし、
2）に関しては、同じく初期経典に「色は我でない。受は我でない。」などといって、五蘊、特に識蘊さえも我でないと説かれていることを、指摘する。そして、五蘊に依ってただ言説として設定されたほどの我が、生来的な我見の所縁である我だとしている。 詳しくは、拙著『ツォンカパ 中観哲学の研究Ⅲ』 pp.203-210 などを参照されたい。

アーラヤ識　（阿頼耶識）デジタル大辞泉
《〈梵〉 ālaya-vijñāna の音写と訳との合成》仏語。唯識説で説く八識の第八。宇宙万有の展開の根源とされる心の主体。万有を保って失わないところから無没識、万有を蔵するところから蔵識、万有発生の種子(しゅじ)を蔵するところから種子識ともいわれる。

【試訳】
では、これらの 2 つの自己または「マインド」とは何でしょうか？
（1）「人の自己」および
（2）「現象の自己」と呼ばれるものです。

上師を遠くから呼ぶ
（最後の偈）

われの心は仏と証悟せず　思いは法身なること理解せず
戯作なき自然をあるがまま育めず　如性は自生の姿と信じ得ず
上師よ慈悲もて今こそ見そなわせ　明知そのまま悟りに至るよう

証悟（しょうご）仏教語大辞典
仏道を修行して身をもって悟ること。悟りを開くこと。

自然（じねん）仏教語大辞典
③おのずからそうであること。本来そうであること。仏教そのものの真理を表す言葉として用いられる。

自生（じしょう）仏教語大辞典
①存在するものそれ自体の本性。本来の独自の本質。固有の性質